

授業ディベートのよさ

授業ディベートで弱点を克服する

一般的なディベートとは違い、教室で行う授業ディベートでは、事前の準備段階で授業者が肯定側、否定側双方に介入し、議論がかみ合うようにもっていくことは、ある程度可能です。ディベートそのものの勝敗よりも、テーマを通した学びがより深まることに主眼を置いています。ディベート後の一人一人の意見文作成が重要だと考えています。目的としてのディベートと方法としてのディベートの区別の問題です。ディベートを教えるのではなくディベートで教えるのです。

今回実践した「故郷」における読解学習のためのディベートでは、入門期ということもあり、事前学習での介入はほとんどしませんでした。その結果、議論のすれ違いなどが起き、深まりという点では不十分でした。今後、文学教材での読み取りにディベートを用いる際には、授業ディベートのよさを生かして、議論がかみ合うように手を入れるようにしていきたいと思います。

ディベートは真剣勝負の討論

ディベートは討論の後に、肯定側、否定側のどちらが勝ったかを決めます。この勝敗を決めるところが、思考を促進させます。勝とうとすれば、全体と部分、抽象と具体、一般と特殊の間を往復する思考が活発になります。いわゆる論理的思考です。我々日本人は、この論理的思考が苦手です。だから討論もできません。したがって、ディベートを学校の授業に導入すべきなのです。論理的思考にもとづく討論の学習としてディベートは最適です。

本来のディベートでは勝つことが目的になります。討論の意義は、相互の批判にもとづきながら、お互いが協力して真理を究明することにあります。教室で行う授業ディベートでは、勝敗だけでなく、討論の目的である真理の究明がおろそかにされることはありません。

授業ディベートの効用

読解学習の手段としてディベートを取り入れることにより得られた成果をディベートの効用として以下に列挙します。

- 問題意識をもつようになる。
- 自分の意見をもつようになる。
- 情報を選択し、整理する能力が身に付く。
- 論理的にものを考えるようになる。
- 相手（他人）の立場に立って考えることができるようになる。
- 幅の広いものの見方・考え方をするようになる。
- 他者の発言を注意深く聞くようになる。
- 話す能力が向上する。
- 相手の発言にすばやく対応する能力が身に付く。
- 主体的な行動力が身に付く。
- 協調性を養うことができる。

ディベートは授業を活性化させる起爆剤

ディベートは生徒の意欲を引き出し、国語科の授業を活性化させる起爆剤としての可能性をもっています。万能とは言い難いとはいえ、強力な武器であることに間違いはありません。